

平田竹男著「なでしこジャパンはなぜ世界一になれたのか？」



◆平田 竹男(ひらた・たけお) 1960年1月16日、大阪市生まれ。51歳。横浜国立大経営学部卒業後、82年に通産省(現・経産省)入省。88年、ハーバード大ケネディスクール卒業(行政学修士)。91年から3年間、外務省に出向し、資源エネギ一庁石油・天然ガス課長などを歴任。2002年日韓W杯招致に協力。2006年に退任。現在は早大大学院スポーツ科学研究科教授。桑田真澄さん(スポーツ報知評論家)らを指導した。

BOOKセレクト

4年アテネ五輪での「勝利」とともに、「モーニング娘。」のフットサル活動で女子サッカーの「普及」を仕掛けた

元日本サッカー協会専務理事で早大大学院教授の平田竹男氏(51)が、著書「なでしこジャパンはなぜ世界一になれたのか？」(ポプラ社、1365円)で、なでしこ戦士の強さの秘密に迫った。200

勝利の陰にあったモーニング娘のアシスト

平田氏。MF沢穂希33の背中を追いかけて新エースに成長したFW川澄奈穂美(26)を例に「第2の川澄」の出現を待ち望んでいる。(星野 浩司)

強化と普及両立

なでしこジャパンは、なぜ世界一になれたのか? この問いに、平田氏は「ひと言では難しい」と考え込みながら「2004年なくして世界一はない」と言い切った。

「なでしこのW杯優勝に」さすがに世界一は予想外すぎます」と平田氏

1996年アトランタ五輪はグループリーグ敗退、2000年シドニー五輪は出場すらできず…。そんな女子サッカー「暗黒時代」の02年、平田氏はサッカー協会専務理事に就任した。04年アテネ五輪での「勝利」と女子サッカーの「普及」の「二兎」を追った。4月24日、最終予選の北朝鮮戦。マッチメイク担当の平田氏は、国立競技場での土曜日のゴールデンタイムのテレビ中継を実現させた。会場には3万1324人、関東での視聴率は16.3%に上り「新聞で『巨人戦を超えた』と話題になった。あれからテレビに映ることが常態化した。

会場のスタンドでは当時、日体大1年だった川澄が観戦。右膝に痛み止めの注射を打って出場した次のプレーなどを見て「大観衆のなかで女子サッカーをもっとやりたくなった」と強く感じたという。今回のW杯で新エースに成長し、あの時、川澄が国立にいてくれた今があると思うと、ウルツとくる。アテネ五輪8強、北京五輪4強と着実に前進してきた。W杯前の昨年、沢と対談。「彼女はすでに『世界一になるには…』と話してた。本気でイングランド、ブラジルに勝つ気でいた。今でも試合後にメールが届くといい「彼女は遠い人になっちゃったのに、王貞治さんのように誰に対しても親切で、大きな人」絶賛する。「普及」への仕掛けは、「モーニング娘。」のフットサル活動だった。娘とともに「ハロープロジェクト」の運動会を訪れた。石川梨華さんや松浦亜弥さんが飛び箱13段とんだり、すごかった。辻希美さんは5、6段でペチャッと、それもカワイイけどね。アイドルがフットサルを本気で楽しむ姿に、ファンの評判は上々。女性の競技人口増加につながった。

今回のW杯後、リーグ戦の観客は従来の10、20倍も増えたが、選手の給与、スポンサー収入など環境面は十分ではない。競技人口は4、6万人で、米国の40分の1。テレビ放映権は1試合10万円というケースもあるが、今はタダでも映してもらって多くの人に見てもらいたい。第2の川澄が出てほしい」と熱望した。

◆プレゼント 平田氏のサイン入り著書を3人に。希望者は、郵便はがきに、〒住所、氏名、年齢、好きな作家と社会面の感想を書き、〒108-18485 報知新聞社文化社会部・ブック「なでしこ世界一」係まで。10月10日の消印まで有効。当選者の発表は本の発送をもって代えます。